

語学研究部「国際理解生徒研修会」に参加しました。

7月18日、語学研究部3名は、国際理解・国際協力についての理解や異文化理解を深めることを目的とした「国際理解生徒研修会」に参加しました。宮城県高等学校国際教育研究会が主催し、仙台多文化共生センターで行われたものです。貧困や児童労働の問題、ジェンダーの問題等に関して、県内の高校生がプレゼンテーションを行うのを見て、自分たちが何を課題と捉え、伝えていくのか、ということについても考えることができました。また、異文化理解としてバングラデシュ出身のアブドゥラ・アル・マムンさんからお話をいただき日本とは異なる文化背景を学びました。

【生徒の感想】

今回の研修会では自分と同じ年齢の生徒が、貧困についてとても深く考えていることに強く衝撃を受けました。特に、十分な機能を持つ住宅が少ないことに対する解決策として団地を建てるという案は、建材や人材の問題はあるものの、集団で生活することで、コミュニティが形成されたり、付近に学校を建てることで多くの児童が教育を受けることができたりする等のメリットが大きく、その合理性に驚きました。

(語学研究部2年 玉川 淳之介)

グローバル問題に対して深く考えているプレゼンテーションを聴き、自分自身も考え方の幅が広がったように感じました。特に印象に残ったのは、チャドの就学率、識字率を向上させたいというもので、解決策として考案された団地は、特に壁、色、構造、風などの面を意識した設計で驚かされました。研修会に参加し、自分も深く考える機会を持つことができました。

(語学研究部2年 幾世橋 遼)

今回の研修では、今までの交流とは違ったことを体験できました。マムンさんの話の中には宗教や神についての話もあり、自分たちとは違った価値観もあるのだと実感できました。今後海外の方と交流する機会があれば、宗教上の背景等についても事前学習をしておきたいと思いました。

(語学研究部2年 小野 遙生)

